

1 週

# 講座の全体を理解しよう

## 今週の目標：

- ・「教育の方法と技術」の講座の全体を知る
- ・主体的な学習を進めるためのチーム学習と個人学習の意義を理解する。
- ・自分のコミュニケーションスタイルの傾向を知る
- ・「私のプロフィール」と「イメージと感想の調査」を提出する

### (1) 講座の概要

>> 01-01 講座のあらまし

この講座は講義を聴いたり決まった課題を演習したりするというものではなく、自分たちでチームを組んで新しい学校を構想しながら学校教育の全体的構造を理解して、学校教育に関する専門的知識を理解するとともに、教育実践に求められる基礎的能力を習得することを目的としています。「講座のあらまし」をよく読んで、講座の特徴をよく理解しよう。

### (2) 主体的な学習の意義

>> 01-2-学生モデルと講座の構成

これからの教育専門職では、自分の専門性をつねに新しくしていくことが重要ですが、そのためには自分から主体的に学習することが求められています。これまでの授業や研修では、教育内容をよく理解して、最終テストにより成績を修めることが重要でしたが、そのような学習態度ではこれからの複雑で難しい教育問題に対処していくことができません。そこで主体的に学習するとはどのような意味があるのかを考えます。

### (3) コミュニケーションスタイルの傾向を知る

>> 01-3-コミュニケーションタイプの調査

社会生活で他人を相手に仕事をしているときに、「コミュニケーションの難しさ」を経験することがしばしばあります。この講座では、13週間にわたって自分とは異なった経験をしている人とチームを組んで学習をします。その過程でお互いにコミュニケーションをとりながら創造的な活動を行うことを体験します。そこで、皆さんのコミュニケーションスタイルの傾向をテストで調べ、その結果をチーム編成に活かしてみてください。

### (4) 「私のプロフィール」と「イメージと感想の調査」を提出する

>> 01-4-私のプロフィール 01-5-イメージと感想の調査

この講座のチーム学習の課題の1つである「理想の学校の構想」を進めていくときに、自分たちの学校教育に対するイメージを手がかりとします。「私のプロフィール」は、イメージを共有するチーム作りの資料とするので、必要事項を記入して提出してください。

提出

「私のプロフィール」「イメージと感想の調査」裏表1枚

このページは白紙です

# 講座のあらまし

## 教育技術と知識創造



内容説明

### 新しいアイデアを開発し問題を解決していく過程を学習します

教育を取り巻く環境はますます複雑になっていて、学習者も多様化しているので、混迷をきわめた問題に直面することが多くなっています。大学や研修所で学んだ内容がそのまま役立つことは少ないでしょうが、学び方や問題解決への考え方や態度が役立つことが多くあります。したがって、この講座では、みなさんが、様々な問題に直面した時のことを予想しながら、自分たちで新しいアイデアを出し、問題を解決していく過程を学習します。

#### 問題解決としての教育技術

- 複雑化している学校の問題
- つねに新しい問題が発生する
- 子どもは多様である
- 社会の要請や親の期待は大きい

あなたならどうする？

問題解決のための知識創造

### 知識創造のチームを組んでチャレンジする講座

この講座では、教育技術についての知識を習得するだけが目的ではなく、学校教育を全体として捉えること、さらに教育の技術や方法を自分で開発していくときの基礎となることを学びます。したがって、講座での説明を聞いて理解するだけでは不十分で、みなさんがチームを組んで問題解決や新しい知識を生み出すことを体験する講座になることを目指しています。チーム学習では役割を分担し、さらに個人学習とチーム学習とを組み合わせた学習もします。情報を集めたり、役割を分担したりして具体的に活動しながら学習します。それが現実の生活であり仕事です。あなたの問題に他人が解決策を与えてはくれませんから、あなた自身が解決していかなければならないのです。

### 新しい知識はどのようなときに生まれるか

新しい知識は恵まれた人にだけ生まれるものではありません。注意しておれば、あるいは努力しておればフッと湧いてくるものです。大切なことはそれに気づき、消えないうちに記録して、組織的に新しい知識としてまとめていくことです。そのためには手帳やケータイのメモを利用して記録します。そのような思い付きをまず集めることが大切です。そのあとで問題解決に役立つようにまとめていきますが、そのときに自分ひとりでははっきりしたアイデアにまで詰めていくことはなかなかできないものです。しかしチームで議論していると、しだいに明確な知識になります。

#### 知識はどのようなときに生まれるか

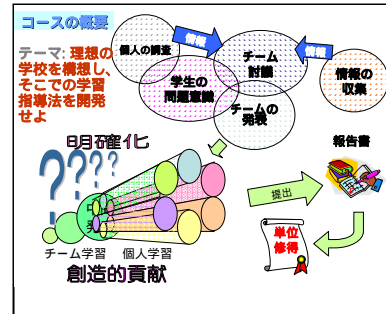
- 追い詰められて困っているとき
- 新しい事を始めたいとき
- 他人と競っているとき
- グループやチームで話し合っているとき
- 一人でくつろいでいるとき
- 違った考えを比較しているとき
- その他にもっと列挙してみよう

### チーム学習によって新しい知識を創造する

この講座は、基本的にはチーム学習と個人学習との両面から進んでいきます。新しいアイデアは最初のうちはぼんやりしていて、自分でもそれが新しいものなのか、あるいはすでに広く用いられているものなのかは不明です。し

かし、自分で考えているうちに自分に納得できるものになっていきます。さらにそれをチームの人たちに示したときに他の人も納得して合意に達するようになるのであれば、かなり有望です。それを文章にまとめておきましょう。このようなアイデアが報告書を書くときに役立ちます。報告書にまとめて他人を説得できると、自分のアイデアを社会的に役立つものにする事ができます。

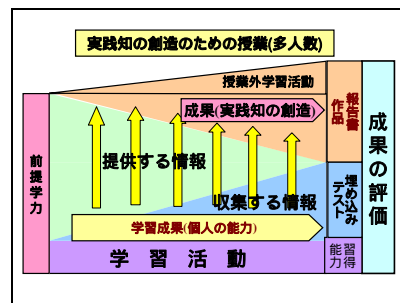
以上のような状況を図にすると右のようになるでしょう。スタートしたときはまだ自分たちの考えが明確でないの、何をしたいのかわからない。しかし、誰でも学校生活を経験してきていますから、漠然とはしていても何らかの理想的な学校のイメージをもっているはず。このような問題意識から始まって、チームで討議し、チームで発表することを目指してまとめていきます。そのときに必要な情報を集めたり、個人で調査したりします。さらに最近ではほとんどの学校がホームページを公開していますから、自分の母校だけでなく、さまざまな学校を訪問してみよう。



## 学習成果を目指した学習

これまでの講座では、最終的な目標が示されないままで講義が進行し、最後に課題が出されてレポートを書くというのが普通です。レポートは学習の目標として目指されるものではなく、どれだけ頑張って勉強したかを評価するために課されます。しかし、一般の研究や仕事では、最終成果がはっきりした形で進むのが普通です。どのような論文を書くか、どのような製品を開発するかなど目指すところは、最初はばくぜんとしていても、しだいにはっきりしてきます。したがって、この講座でも期待されている学習成果は明確です。それは将来の学校とそこでの学習指導の基本的な考え方をまとめて他人を説得できるような報告書にすることです。いろいろな参考書や資料などを読んで、どのようにまとめればいいのかを意識することが大切です。

最終報告書は、指導者に対する報告書ではありません。自分たちが考えたこと、調べたことなどを活用しながら、自分の考えをできるだけ明快に展開して、提案書を公開して他人からの評価を受けることを目指します。



### 新しい知識をまとめていく

- 混沌とした段階
- 自分が納得できる段階
- チームで合意できる段階
- 文章にまとめられる段階
- 報告できる段階
- 説得できる段階

# 学習者モデルと講座の構成 内容説明

情報通信技術 (ICT, Information and Communication Technology) 時代においては、つぎのような学習者モデルが期待されています。

誰でもインターネットや図書ならびにさまざまな資料を通じて、最新の知識を入手できる。

教師や指導者が情報や正しい知識を独占している状況は過去のものである。

すべての人が単なる知識の消費者としてではなく知識の生産者として成長することができる。

= 知識消費者モデルから知識生産者モデルへ

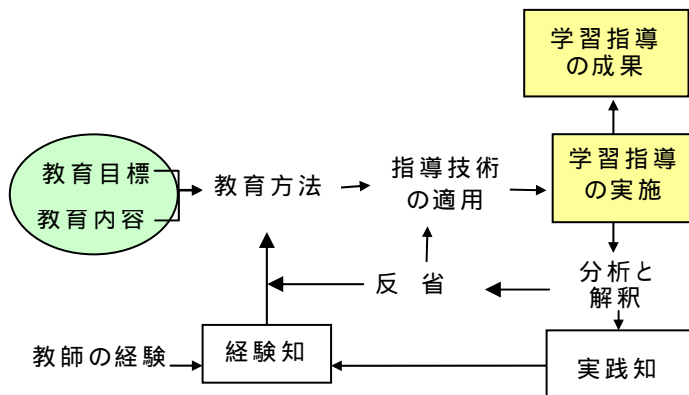
講座にはさまざまな経験をもつ人材が参加しており、お互いに学ぶことによって創造的な活動が期待できる。

他人との競争による勉強から、多様性のある学友や同僚と協力しながら学ぶ構えに変革することができる。

学習する内容を個人の教養重視から社会貢献と生活維持をめざす社会的に有用な能力の習得へと転換することができる。

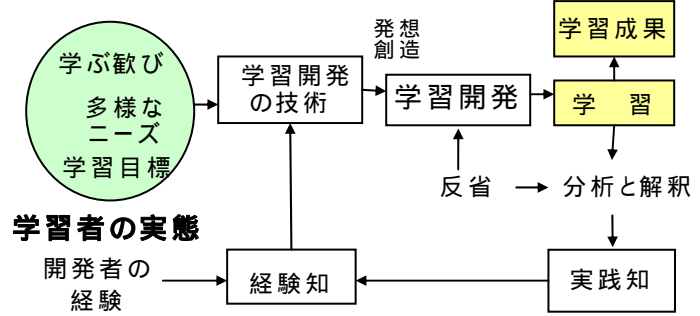
## 自律的学習を目指す講座

これまでの教育では教育理念や教育目標から発想することが普通でした。教育方法学の授業でも最初に教育内容があり、それを講義かせいぜい演習形式で授業を実施して、学生はそれを理解することが期待されているというのが普通です。授業が効果的になるように視聴覚機器を利用するなどいろいろな工夫がなされますが、基本的には教育内容は教授者によって決められます。これは図のようにまとめられるでしょう。



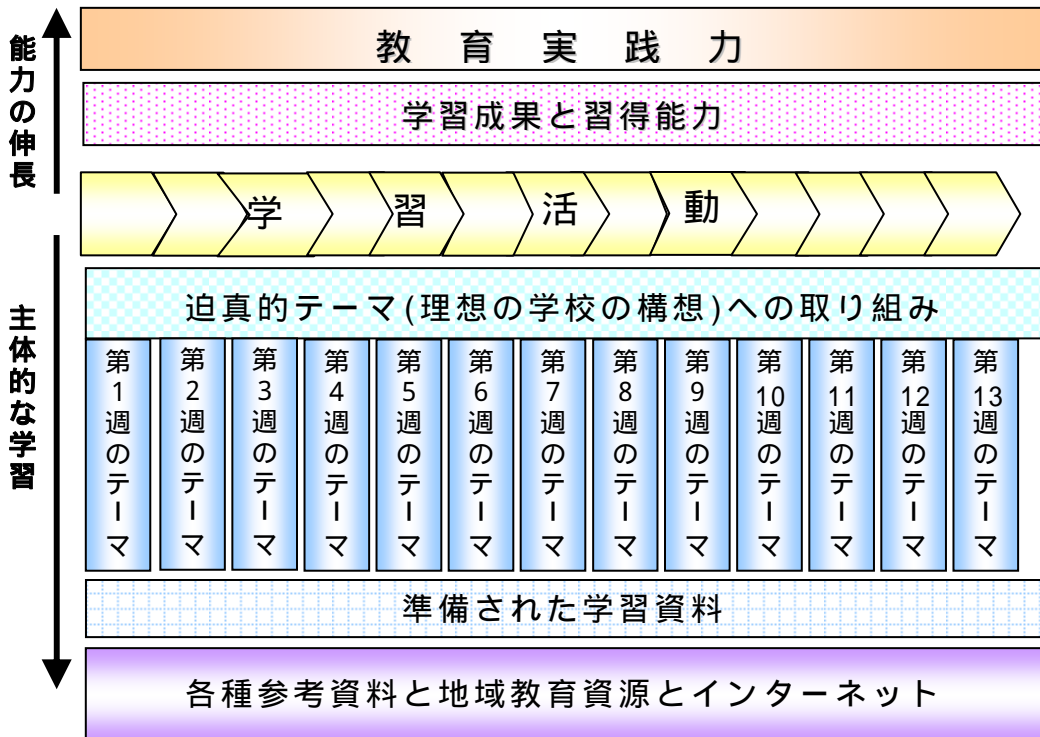
それに対して、もう 1 つのアプローチがあります。さまざまな能力と知識をもつ個性ある多様な参加者がさまざまな経験と知識を持って参加しているような授業です。これから体験する講座はこのような状況を想定しています。とくにチームでお互いに問題意識を共有しながら、その問題解決に協働できるような授業として設計してあります。

この講座では全体的なテーマに取り組むことを意識しながら毎週のテーマに従って学習活動し、最後に作品やレポートが生み出され、一人ひとりの能力が育成されるように設計されています。チーム学習では、メンバーの協働と貢献が最終成果を大きく左右します。学習は独りだけでは持続できないし広がりも生まれないので、お互いが刺激しあったり助け合ったりしながら学習を進めよう。講座は毎週の学習テーマにしたがって展開しますが、少しゆとりをもたせて学習に必要な資料が用意されています。その他にも各チームで分担して必要な資料を収集するとともに、インターネットを通じてさまざまな情報を入手することを前提としています。



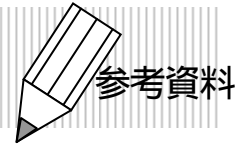
学習ではまず「今週の学習テーマ」を読んで、つぎに関係する学習資料を参考にする。いろいろなことを調べたり記入し、必要があればインターネットで探索したり、図書館で調べたりします。学習の順序はつぎの通りです。

- 「今週の学習テーマ」を読んで全体を理解して学習活動を始める
- 学習資料を参考にする
- その他の資料を集めたりインターネットで探したりする
- 演習課題があるときはそれを行う





# コミュニケーションタイプの調査



社会生活で他人を相手に一緒に活動したり仕事をしたりしているときに、「コミュニケーションの難しさ」を経験することがしばしばあります。この研修では、13週間にわたって自分とは異なった経験をしている人とチームを組んで学習をします。その過程でお互いにコミュニケーションをとりながら創造的な活動を行うことを体験します。そこで、皆さんのコミュニケーションスタイルの傾向をテストで調べ、その結果をチーム学習中のコミュニケーションに活かしてみてください。

## コミュニケーションの4つのスタイル

株式会社コーチ・A取締役副社長の鈴木義幸氏は、人間のコミュニケーションスタイルは4つのタイプに整理できると述べています。鈴木氏によると、勿論はつきりと分けることはできませんが、傾向を知る手がかりになるとして、次の4タイプを挙げています。

**コントローラー**：自己主張が強く感情表出が低い

行動的で、自分が思った通りに物事を進めることを好む。  
結果を重視し、単刀直入にものを言う。

他人から指示されることが何よりも嫌い。

**プロモーター**：自己主張が強く感情表出が高い

活気あることをするのが好み、自発的でテンションが高い。  
オリジナルなアイデアを大切にすが、あきっぽい。

細かいことはあまり気に留めない。

**サポーター**：自己主張が弱く感情表出が高い

人を援助することを好み、協力関係を大事にする。  
人から認めてもらいたいという欲求が強い。

自分の感情は抑えがちのため、うっせきがたまると周囲を驚かせる行動にでる。

**アナライザー**：自己主張が弱く感情表出が低い

情報を分析して計画を立ててから行動するため、とても慎重で感情的ではない。  
物事を客観的に捉えるのが得意。  
完全主義的なところがあり、ミスを嫌う。

さて、あなたはどのタイプの傾向が強いでしょうか。

鈴木氏は、タイプによって効果的な褒め方も仕事の依頼の仕方も異なるので、これらのタイプを正しく理解することが、人間関係を成功させる秘訣であると説明しています。

さっそく裏のテストに取り組んでみてください。

今回紹介するのは「コミュニケーションスタイルインベントリー」というものの簡易版です。

(本公開版では設問を省略しています)

## コミュニケーションスタイルインベントリー(簡易版)

1 = よくあてはまる 2 = あてはまる 3 = あまりあてはまらない 4 = あてはまらない

**(設問と計算式は、本公開版では省略しています)**

コントローラーの点数 ( 点)

プロモーターの点数 ( 点)

サポーターの点数 ( 点)

アナライザーの点数 ( 点)

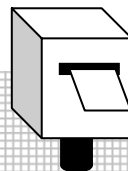
出典：鈴木義幸 「コーチングから生まれた熱いビジネスチームをつくる4つのタイプ」

株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン、2003

「4つのタイプ分け」に関する著作権は株式会社コーチ・エィに帰属します。

それぞれのタイプに相応しい褒め方や動機付けや反論の方法については上記の文献を参照してください。





# 私のプロフィール

ふりがな	性別	ID
氏名		

チーム分けする際に性別が偏らないように配慮するので性別も記入してください

この講座に期待すること

---

## (該当するものに をつけなさい)

学部学生 大学院 教員(幼稚園) 教員(小学校) 教員(中学校・高校)  
教員(大学) 教員(その他) 民間企業・官庁等 自営業その他( )

## 学習技術について

情報技術でできること (該当するものに をつけなさい)

ワープロ	よく使っている	ときどき使っている	使っていない
パワーポイント	よく使っている	ときどき使っている	使っていない
インターネット	よく使っている	ときどき使っている	使っていない
ケータイ	よく使っている	ときどき使っている	使っていない

図書館の利用 (該当するものに をつけなさい)

よく利用する                      ときどき利用する                      まったく利用しない

学習管理のためのコンピュータソフトの利用

利用したことがある              ちょっと利用したがよく分からない              利用したことがない

講座では4-6名が1チームとなって学習を進め、メンバーがそれぞれの役割を果たします。あなたはどのような役割を担担したいですか。希望の1位と2位を選びなさい。

1. 司会係 チーム学習の進行に責任をもち、討議が円滑になるように配慮します。
2. 技術係 メンバーがコンピュータやインターネットなどを使えるように支援します。
3. 記録整理係 討議の内容を記録しながら、討議の円滑な進行を確認します。
4. 計画管理係 出欠やメンバーの連絡先や学習計画を管理します。連絡網の筆頭です。
5. その他 具体的な内容・理由( )

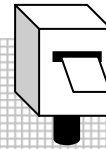
1位 \_\_\_\_\_ 2位 \_\_\_\_\_

自分の長所でチームメンバーに紹介したいこと

---

コミュニケーションスタイルインベントリー簡易テストの結果をつぎに記入しなさい

コントローラー ( )点  
プロモーター ( )点  
サポーター ( )点  
アナライザー ( )点



提出  
シート

# イメージと感想の調査

ID 番号( ) 氏名( )

これまでに長期にわたって学校教育と大学教育とを受けてきていますが、つぎの項目について、感じていること、考えることなど何でも構わないので自由に書いてください。たとえば、学校、授業、先生のイメージは(.....)のようだ。

学校のイメージは( )のようだ。(イメージした学校の種類 )

.....

.....

.....

授業のイメージは( )のようだ。(イメージした学校の種類 )

.....

.....

.....

先生のイメージは( )のようだ。(イメージした学校の種類 )

.....

.....

.....

インターネットのイメージは( )のようだ。

.....

.....

.....

ケータイのイメージは( )のようだ。

.....

.....

.....